

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700086		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ喜楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2133-8		
自己評価作成日	令和4年 2 月 28 日	評価結果市町村報告日	令和 4年 5 月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3 月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>新型コロナウイルスの影響で、買い物や家族との交流が制限され、利用者様が何を求めているのかを常に考え、会話に十分な時間をかけて、少しでも不安な気持ちにならないよう毎日を楽しんで生活して頂けるように援助しています。又、利用者様の高齢化が進み、運動・脳トレやレクリエーション等、いろんな面で一人ひとりのレベルが違うため、一人ひとりのレベルに合わせて無理のない程度で、体力維持に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者と共に生活する中で潜在能力を持続することで生活が不自由になってくることを遅らせ、出来るだけ自身の持つ力を大切にケアが継続されています。今年は新たに統括が就任され、法人・事業所・入居者・家族それぞれを繋ぐ橋渡し役を努めていることで、それぞれの思いが通じ合う様子が見えました。職員面談では、入居者にしっかり向き合い、訴えをしっかりと聞く日々のケアがあり、入居者の笑顔を喜ぶ様子を伺うことができました。このコロナ禍が続く時期での入居者と家族の関わりを絶やさないような認知症の専門機関としてグループホームの役割や入居者の春夏秋冬を目に見えるような工夫が期待されます</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた年間目標を掲げ、日々のケアを実践している。また、入所者の方たちが充実した生活が送れるよう毎月モニタリングにて話し合っている。	法人・事業所理念は職員で共有しており、入居者と職員と一緒に生活する中で不自由になってくることを遅らせ、出来るだけ自分でしてもらえるようなケアに取り組んでいる。	職員面談ではそれぞれの思いでケアに取り組む様子が伺えました。統括就任を機会に法人・理念を振り返る機会を設け、理念がケアの礎であることを共有される機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に参加したり、中高生の体験学習を受け入れや、近隣の店に買い物に行くなどしていたが、現在は中止している。	例年、地域のストアでの買い物や学生の体験学習受け入れ、デイサービスに訪問される地域住民との交流を行っている。	コロナ禍により事業所・入居者と地域とのつながりの機会作りが難しかったようです。落ち着いた際には、入居者と地域住民の日常的な交流に繋がる取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が開催できず、地域の方々の意見を聞く機会が減少している。コロナの状況を共有するなどして、地域とのつながりを深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて、運営推進会議は開催していないため、資料送付のみ行っている。	例年、2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、コロナ禍のため資料の送付を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当課や社会福祉協議会との連携は良好、協力関係が出来ている。また、緊急時対応ネットワークのメンバーとして緊急対応品備蓄の協力を行っている。	役場や社協等とは日頃からの連携で協力関係を築いている。熊本地震以降、町の防災備蓄等の協力も行っている。今年度は感染症に関する情報交換もあり予防に取り組んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が国道に面しているため、夜間のみ玄関を施錠している。また、毎月のモニタリングなどで身体拘束について話し合いをし、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内各事業所のホーム長が集まる会議で毎月身体拘束をしないケアについて話す機会を持っている。職員間では過去の研修事例をもとに、身体拘束の有無確認、身体拘束廃止マニュアルの共有を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会議を行っていないため、毎月のモニタリングで虐待について学ぶ機会を設けて、虐待防止に努めている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方が増えた事で、職員が学ぶ機会を作り、理解し認識している。成年後見制度は活用できたが日常生活支援事業については認識も低いため、学ぶ機会を作っていくようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約については、運営者自ら説明を行い、利用者や家族に充分納得して頂いた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話などで、家族より意見や要望があればホーム長会議などで管理者や他職員に報告し、可能な限り反映できるよう努めている。	コロナ禍によりリスクレベルでの面会受入れの判断をしている。日中、ホーム長または副ホーム長が面会時の家族対応を行うこととしており、報告を兼ね意見を表しやすい関係作りを行っている。家族には毎月広報紙を送り、法人の考えや思いを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のモニタリングで、職員の意見や気づき等を発表する場を設けている。ホーム長や施設長などが話し合い検討した上で可能な限り反映できるよう努めている。	毎月各事業所(ユニット)職員が集まりモニタリングを行っており、その際に職員の意見や提案を聞く機会を持っている。毎日の勤務時にもホーム長又は副ホーム長が在席しており、職員は意見や提案を表す機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員と個別に話す機会を設け、アドバイスやケアを行い不安の軽減・楽しみ、やりがいをもちながら働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはリモートにて参加し、内容を開示している。また、職員のレベルを把握し施設内で小規模の研修会を行う機会を設けて、職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策として情報を受け取りする中で、どうこの状況を乗り越えるか、など情報の共有に勤めている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して話せる環境と、信頼して話せるような関係性を築き少しずつ要望や困っている事、不安な事を聞きだしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が職員を信頼して話せるような環境と雰囲気作りに取り組み、なるべく多くの事を話してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	充実した日々を送ってもらえるために、「何が必要なのか?」「何を求めているのか」本人と家族の必要としている支援を見極めサービスに取り組み支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごし支えあいながら、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話にて本人の近況報告を行い、家族と協力しながら本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の人々とのつながりを保てるよう努めてきたが、コロナ禍の中継続する事が難しくなっている。	コロナ禍により従来のような面会受入れや隣接するデイサービス利用者等の交流、外出による関係継続支援は難しい状況であった。家族との関係が希薄にならないよう、できるだけ家族との電話やリスケレバルによる感染対策を行った上での面会等を受け入れてきた。	感染症予防の観点から入居者はユニット内での生活が殆どです。入居者のそれぞれの生活支援のため、対策を行った上での活動の工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性などを考え孤立しないよう工夫し、互いに関わりあうコミュニケーションが取れるよう支援している。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設外であった時には気軽に声掛けし相談しやすい関係を保つよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との触れ合いや会話の時間を多く持つよう努めている。本人の希望や意向を汲み取るようにしているが、困難な場合は説明し納得してもらった上で代替りの案を本人主体で考えられるよう支援している。	職員は入居者との寄り添いの中で、表情などにより思いを汲み取っている。思いを表すことが難しい入居者には日常会話の中で思いを汲み取るようにしている。	近年高齢化もあり思いを表すことができる入居者が少なくなった様子が聞かれました。声掛け等により、入居者の選択の機会を作る等、希望や意向を把握する取組みの継続に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの生活歴や暮らし方、環境などを聞き取ると共に関係機関と連携を取り可能な限りの情報を集めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化も見逃さないよう一人ひとりの状態を把握し職員同士で情報を共有しながらケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い職員同士で意見を交換し本人や家族、必要な関係者と話し合った上で現状にあった介護計画を作成している。家族にも説明し了承を得ている。	入居者一人ひとりの担当職員がモニタリングやケアプランに沿った評価を毎月行っている。それらの内容や他職員・ホーム長、家族や関係機関等の意見を併せて介護計画としており、結果は職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変わった事など介護記録に記入し毎月モニタリングで話し合っている。そこで情報を共有しケアを見直して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や行政機関との連携を図ると共に、その時々生まれるニーズに対応。本人や家族のニーズの把握に努める事で可能な限り柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中高生の福祉体験学習の他に、婦人会や地域ボランティアの方々が訪問されレクリエーションを行われるなど地域の方々と触れ合い、楽しむことができない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医を重視し本人や家族の希望する医療機関を利用している。また、主治医による定期的な往診もあるため利用者を継続してみられる環境を整えている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状かかりつけ医は入居者により様々であるが、往診も多い。緊急の場合の搬送医療機関もある。歯科医も往診を受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は医学的判断や処置が必要だと思われる時は、必要な情報を看護職に伝え適切な処置や受診を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は地域連携室とのやりとりを通じて利用者の状態を把握できている。退院時も、すぐに受け入れられるよう協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の考えや意見、要望などを聞きながら主治医と情報を共有し連携をとりながら支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に関する事業所の対応・方針について説明している。実際にその時期を迎えた際には主治医と相談しながら支援を行っている。看取りの際には、コロナ禍であっても家族面会を受け、最期の時間を過ごして頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のモニタリングを通して、看護師による研修や指導のもと全職員が対応できるよう、実際の事例を用いたの検討も行っている。また、マニュアル作成し緊急時にも備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全体研修会議時に火災や地震、火山噴火や水害での被害の予想をして避難場所の確認を行った。また、火災を想定した避難訓練を行い、防災設備と使用方法についても学んでいる。災害物資の貯蔵も行っている。	日常生活の中で火災予防を第一とし、コンセントの掃除を定期的に行うようにしている。コロナ禍でもあり、事業所全体での避難訓練は難しい状況であった。町との協力で、災害時備品を敷地内に設置している。	コロナ禍ではありますが、災害の予想は難しいものです。もしもの時に備え、避難経路の共有・確認、入居者の避難について等を話し合う機会作りに期待します。

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者の尊厳に配慮した言葉かけと対応を身につけられるよう努力している。また、職員間で注意しあっている。	入居者の尊重とプライバシーの確保について配慮したケアを行っている。日々のケアの場面で気になる事例がある際には都度ホーム長より口頭で伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは話す際は、本人の思いや希望を引き出すような声掛けをし傾聴している。また、自ら伝える事ができない利用者に対しては表情や動作を見て汲み取るようにしている。その上で可能な限り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握した上でその人に合わせた声掛けを行う様にしている。それぞれのペースで希望に沿った一日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が声掛けや介助を行うことで常に身だしなみを整えていられるよう努めている。その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を考慮し、その人に合った作業(台拭き・食器など)を行ってもらっている。食事中は会話をしながら楽しめるように支援している。	季節の食材等を使用し、職員手作りの食事を提供している。日々の食事作りには入居者の関わりも難しくなってきたが、干し柿等保存食作り等楽しみごととして継続している。誕生会には赤飯やケーキ、季節行事の献立やリクエストメニュー等、工夫をこらしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を介護記録に記入し食量や水分量の把握に努めている。利用者の嚥下能力や嗜好、疾患などを考え今の状態に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて声掛け、見守り、介助を行っている。また、歯科医師と連携を取り必要な方には指示に従った口腔ケアを行っている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し時間誘導を行っている。また、体調やしぐさを観察してできるだけ失敗がないよう努めている。夜間も排泄間隔に合わせた誘導や声掛けにてトイレでの排泄ができるよう支援している。	入居者一人ひとりの排泄パターンによる声掛け等でトイレ誘導を行い、できるだけ昼間はトイレでの排泄を支援している。夜間は必要な介助の程度によりそれぞれに合わせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し下剤の調整や牛乳の提供、ホットパックや腹部マッサージなどで排便を促すようにしている。便秘が酷い時は運動を促し、水分強化するなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回、体調や気分などを考慮して入浴するか決めてもらっている。時間も本人の希望を聞き、可能な限り合わせるようにしている。	週2～3回の入浴を基本としており、希望があれば毎日入浴可能である。入居者の当日の予定等で午前・午後とも利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも本人が希望する時は居室で休息してもらっている。夜間、定時の巡視時、不安や話がある時など談話・傾聴し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に薬事情報をファイルし、いつでも確認できるようにしている。また、処方薬に変更があった場合は口頭、申し送りノートなどに記録し全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶わん拭きや洗濯物干し・たたみ、飾り物作りや脳トレなど、その人が喜びを感じたり、役割意識を持てるようにしている。また、飲み物やあめなど好きな物を食べる等する事で気分転換を図り生きがいのある毎日を遅れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員付き添いのもと、天気の良い日には戸外散歩を行い季節感を感じてもらえるように努めている。また、気候の良い時期は利用者全員で外出し、お花見やドライブなどの活動をしている。	コロナ禍前までは近隣店舗への買い物やドライブを行っているが、現状は敷地内の散歩等で外を感じる支援を行っている。車椅子使用の入居者も散歩により外を感じる支援を行っている。	

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金の上限を決め、その範囲内で利用者には現金を所持してもらっている。買い物に行きたいと希望があれば職員同行で買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者よりきぼうがあればいつでも電話できるように支援している。また、手紙や年賀状の作成を職員が介助したり投函を代行し、家族や友人と連絡が取れるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく落ち着いた雰囲気、月ごとに折り紙や切り紙などで季節感が感じられる装飾を行っている。また、利用者と職員と一緒に洗濯物たたみや食器拭きなどを行い、生活感を感じてもらっている。職員は、温度・湿度に気を配り過ごしやすい空間作りに努めている。	感染予防から換気・室温・湿度に配慮しており、日中の生活の中でも入居者が密にならないよう配慮している。居室に入居者がいない時間帯には窓を明け換気している。時間帯を決め、清掃・消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士でホールにてテレビ鑑賞や談話を楽しまれたり、ゆったり過ごせるように廊下やホールの一角に腰掛やソファを配置し、自由に思い思いの時間を過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では本人が使い慣れた物を置いたり、使いやすい様な家具などの配置を行い、安心できる居心地の良い空間作りに努めている。	ベッドと筆筒が備え付けられている。入居時に出来るだけ使い慣れた生活用品の持ち込みを家族にもお願いしている。面会を受け入れられる時期には部屋で過ごす場面も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも各所に設置され、車椅子や歩行器利用の利用者でも安全に移動できるよう配慮されている。また、日時が分かるようカレンダーや時計を配置し自立した生活ができるような環境作りを行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあそ喜楽

作成日 令和 4年 5月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有	理念を共有し、それを基にケアに励むことでケアの質の向上を目指す	月一回開催のモニタリングにて理念の再確認を行う	2ヶ月
2	20	感染対策を行ったうえでの活動の工夫	コロナで出来ていなかった個人に合ったお出掛け等の活動の実施	感染対策を講じた上での行事を計画する。また、施設回りを散歩を兼ねて植物観察をする	3ヶ月
3	35	災害時の備えの確認	災害時の避難経路の確認、または防災用具や備蓄の再確認を行う	モニタリングにて災害時の避難手順の再確認を行う	2ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。